

月山富田城 島根県安来市広瀬町富田

2022年6月のたびこ塾戦国武将として尼子十勇士の一人山中鹿介(1545-1578)の話の中で、その拠点として月山富田城が紹介されていた。本城の城郭は内郭、外郭から構成され、周囲は断崖絶壁が多く、防衛上、軍政統治上も欠くことの出来ない立地条件を具備し、中国地方における中世城郭の代表的な城跡として重要視されていた。文治元年(1185年)佐々木義晴が出雲の守護として入城以来、それ以後塩冶、佐々木、山名、京極、尼子、毛利、堀尾の各氏が歴代城主として交替。そのなかで最も栄華を極めたのが11ヶ国を領有した尼子氏の時期である。主家への忠義を貫いた山中鹿介幸盛の銅像や供養塔がある広大な山城で尼子が毛川の攻撃を受け滅亡した後は毛川の拠点となり、吉川広家が城主となり、堀尾が松江城を築城するまで出雲の中心として栄えた。(同パンフ)



山中鹿介の肖像画と兜



月山富田城の地図



尼子神社



山中鹿介銅像



山中鹿介の説明板



多門櫓跡





堀尾吉春の墓



三の丸



本丸



三の丸

